

再び研究書の出版について

金 原 一 郎

(医学書文社長)

待望の所 安夫博士の「脳腫瘍」がいよいよ出版されることになった。A4判 974 頁・挿図 874 個・図表 157 個・18,000 円の大冊である。一冊 18,000 円と云うと日本では最高価の書籍であり、医学書として勿論前例のない豪華版である。もつとも外国の医学書では一冊 30,000 円や 50,000 円のは、そんなに珍らしいことではない。Schmolka: Cytodagnostik B5判 161 頁で 12,000 円に較べれば、まだ安い方である。最近入荷したものでは Moellendorff: Mikroskop. Anatomie Bd. 4 Teil 4. 31,800 円 Lubarsch: Handbuch Bd. 13 Teil 3. 29,800 円の如きがある。

それでは研究者にとっては必読書なので、高い本だところばしながらい求めざるを得ないのである。この 4 月医学書院で開催した外国医書展示会で Lubarsch: Handbuch (既刊分だけ 562,660 円) Bergmann: Handbuch (既刊分だけ 248,680 円) など陳列まもなく売切れてしまった。私が毎度申し上げる言葉であるが(良いものは必ず売れる、必要は高価のものを買いしめる)と云う学術書の鉄則がここでも如実に示されている。

× × ×

所博士の「脳腫瘍」18,000 円は、日本では、たしかに驚くべき高価であるが、研究者にとって必要欠くべからざる書であるから、必ず売れると私は確信している。売れるのみならず、所博士のお蔭で私は良い仕事をしたと感謝している位である。古い言葉であるが、私は出版人として身の誉れ、冥加(みよが)に叶った気持ちになっているのである。先年私は研究書の著者へ御願いと云う題目で「医学界新聞」に次のように書いている。

研究書と云うものは、限られた研究者だけの書籍であり、従つて小部数発行のものである。小部数であるから値段も高価になり、外から見ると如何にも暴利をむさぼっているように思われて、その実、企業として引き合わないものである。たいていの出版社が教科書・参考書の出版に走つて、研究書に手を出さないのは、研究書が割の悪い仕事であるからである。然し学問進歩のためには研究書は絶対必要であり、研究書こそ学術出版社が、その社の名誉にかけて学界に送るべきものである。

× × ×

研究書はもとより限られた研究者の為のものであるから、数千数万とベストセラーになるものではないが、限られた研究者にとっては必需書なので、新刊アナウンスメントにさえ接すれば多少の無理をしても、ぜひ入手したいと思うものである。問題は限られた研究者に如何にして確実に、もれなくアナウンスするかと云うことである。

× × ×

私はこういう研究書の新刊に当つて、先ずどういう人々が Interessenten であるか、どういう方法で周知さしたらいかと云うことについて常に著者に御相談することになっている。新刊の著者を囲んで編集・販売・宣伝の担当社員が著者の御意見を承り、或は学会、研究会の名簿を拝借したり、紹介状を書いて戴いたり、その他いろいろと質問するのである。一般の教科書類については、其の必要はないが専門研究書については、其の題目の Interessenten はどの方面にあるか、どういう人々であるか、もつと詳細に言えば誰々であるか、それを詳細に知っているものは実は著者である。従つて販売方法についてのベテランは商人である社員でなくて、実は学者である著者

なのである。

× × ×

殊に特殊な研究書にあつては著者が販売のよき助言者として進んで出版社を指導し Interessenten の方向を指示することがどうしても必要である。そうすることがに依つて、必要な研究書が、確実にもれなく研究者の手に入ることになり、売行部数も増加することになる。従来は学界の事情に通じない出版社が、徒らに広告しても肝心の研究者の眼にふれず、その結果(研究書は売れないもの)と妄断した謬が無いとは云われない。研究書が売れることになれば出版社も進んで発行を引受けるであらう。

著者にとつては長い間心血を注いだ自己の労作が学界に送られ、多くの学界人に読まれることは学者としての本懐であり限りない喜びであらう。同じように出版社は小部数研究書発行に対して自信と愛情を持つことになり、さらに得たる利益を以て新たな研究書の企画に向かつて勇往邁進することが出来るわけである。(「医学界新聞」33.11.3 所載)

私のこの考え方について、所博士は(自分も同感である。学術研究書の著者は、もつと著書の普及について、出版社と協力すべきである。私は本が出来たら、社の自動車を暫らく貸してもらい、本を車にのせて自分で周知の方法を講じたい)と言っている。

御承知の通り研究書に対しては文部省の出版助成金制度があつて、一部分ではあるが若干補助されているが、手続きが面倒で出版社が進んで引受けたからないのが実状である。それより、多くの著者が所博士と同じ気持ちで販売宣伝にまで協力指導してくれれば、その方が文部省の出版助成金より遙かに強力な出版助成となると云うものである。

(34.12.9.)